青山学院横浜英和中学校

算数

計算問題・小問集合・図形・グラフ・規則性など、さまざまな問題を出題する予定です。基本的知識を問う問題では計算ミスなどをなくし、確実に得点できるようにしてください。分野別問題に関しては、すべてが難問というわけではありません。大問のなかで、自分が解けそうな問題をよく見極めて解くようにしましょう。問題文をよく読み、題意をしっかり理解できるかどうかがポイントです。

国語

文学的文章（小説・随筆）と論理的文章（評論・説明文）の読解問題、漢字・語句の知識を問う問題を出題します。読解力に比重を置いて総合的に出しますので、日ごろから偏りなく、さまざまな文章を読んでおくことが大切です。文脈・ポイントを押さえて内容を把握すること、漢字や語句の知識を広げることも重要です。バランスの取れた、確実な国語の知識を身につけておく必要があるでしょう。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から出題します。知識を問う問題や計算問題、思考問題など、さまざまな問題を出題する予定です。理科についての知識は参考書などを利用して身につけ、基本的な知識を問う問題は着実に得点できるようにしてください。また、計算問題や記述問題、作図、グラフや表・文章の読み取りなどに取り組み、思考力・判断力・表現力も養ってください。

社会

出題範囲は、地理・歴史・総合問題です。地理では、地図やグラフ・表などの資料を用いながら地域や都道府県ごとに地形・気候・産業などを確認しておくとよいでしょう。歴史分野については、各時代の出来事・人物をまとめて覚えておきましょう。その際に、出来事の背景や影響を考えながら学習すると理解が深まります。地理・歴史・公民を含んだ総合問題では、最近日本と世界で話題となっていたニュースに関連する問題なども出題します。また、全体を通して文章で説明する問題や自分の考えを述べる問題があります。

神奈川大学附属中学校

算数

計算問題 4 問程度、小問集合 6 問程度、思考力を問う問題が大問 4 問程度で構成されます。計算は、毎日練習し効率よく正確に解答できるようにしておきましょう。小問集合は、一般的によく出題されるタイプの問題が中心です。過去問を解くなどして計算や考え方の基礎・基本を身につけ、確実に解く力をつけておくことが大切です。思考力を問う問題では、解法の暗記ではなく、なぜそうなるのか理由を考え、根気強く答えを導く力が求められます。日常の生活のなかで「なぜ」を意識して過ごし、論理的な思考力を身につけましょう。

国語

問題数は、漢字の書き取り 8 題、説明的文章の読解 7 題前後、文学的文章の読解 7 題前後です。書き取りの続け字は不正解とします。とめ・はね・はらいは許容します。同音異義の漢字を書かないよう問題文をしっかり読みましょう。文章問題では、ジャンルに左右されない基礎的な読解力を測ります。本文について生徒が話し合う問題、本文の内容を図にまとめた問題なども設けて思考力･判断力を測ります。選択問題では、本文中の単語にすぐに飛びつかず、本文の内容や文意に合っているかどうかを根拠にして解答しましょう。

理科

問題は大問 4 題で、大問ごとに 10 問程度の小問があります。物理・化学・生物・地学の各分野から出題し、どの分野も実験や観察、身近な科学現象や自然現象をもとにした問題です。知識を問う問題のほか、文章や図表から読み取る力、情報を整理し解答を導き出す力を問う問題が出題されます。また、語句を書く問題、計算が必要な問題も出題されますので、過去問を利用して練習しましょう。単に基礎知識を覚えるだけでなく、教科書に掲載されている発展的な内容にも目を通し、学んだ法則や原理との関係を考える習慣をつけておきましょう。

社会

問題数は 50 問程度で、配点は地理的分野 40%、歴史的分野 40%、公民的分野 20%です。地理的分野は、産業・人口・貿易・自然環境における日本の特徴や、日本と関係の深い国の特徴を理解していることが大切です。歴史的分野では、原始から現代までの重要な出来事の内容や背景について出題します。公民的分野では、日本の政治や社会のしくみを中心に出題します。漢字での解答を求める問題、統計・図や文字資料の読み取りを通じて、社会的事象に対する認識力を問う問題もあるので、過去問にしっかりと取り組んでおきましょう。

関東学院中学校

算数

試験時間は 50 分です。いずれの日程も、計算問題を 4 問、小問を 8 問程度、大問（総合問題）を 1 題出題します。小問については、誘導問題の出題が 2026 年度入試から導入されました。誘導問題のついた小問は、(1) を解くことで (2) の手掛かりとなります。問題文を見て難しいと思っても、(1) の難易度はそう高くありません。まず取り掛かってみることをお勧めします。大問は思考力を段階的に問う形式で、文章題・グラフ・平面図形・空間図形などの問題を出題する予定です。大問はいくつかの設問に分かれています。前半の設問は小問と同程度のレベルの問題で、後半の設問は、前半の設問がヒントになり解答できる場合もあります。問題文をよく読んで、あきらめずに考える習慣をつけてください。出題の範囲は 4 回の日程のなかでバランスを考え、偏りがないようにすることを心がけています。

国語

試験時間は 50 分です。例年同様に「説明的文章」1 題、「物語文」1 題を出題します。漢字の問いも、読み書きともに出題されます。問題の分量・難度ともに前年度並みです。記述問題には、与えられた条件に従って、自分の考えを論理的にまとめていくようなものもあります。設問が何を聞いているのかをしっかり理解し、文章のつながりをよく考えて、解答に取り組むとよいでしょう。しっかりと句点まで文を完成させることも大切です。正しい日本語で、言いたいことをきちんとまとめられるようになりましょう。選択肢の問題は、問われているところの前後だけを読んで選ぶのではなく、文章全体で書かれていることをつかんでから選ぶことが大切です。本文の読解ができていれば、正解にたどり着ける、平易なものが多くなっています。

理科

試験時間は 30 分で、理科単独で行います。前年度と同じく、各日程とも化学・物理・生物・地学の分野から 1 題ずつ、この順番で計 4 題を出題します。出題範囲の制限はありません。分量・難度ともにこれまでと同様です。基本的な知識問題と、グラフや表から法則性を見いだして解く思考問題があります。知らない現象が題材になっていることもありますが、問題文やグラフ・表がヒントになっています。問題文をていねいに読むことを心がけてください。用語を書く問題や、記述解答を求める問題が各日程であるので、用語は正確な漢字で覚え、文章も適切な表現で書けるようにしておきましょう。

社会

試験時間は 30 分で、社会単独で行います。地理・歴史・公民の各分野から出題します。歴史については、時代観や大きな歴史の流れがつかめているかどうかを問う設問があります。人物・出来事・場所をばらばらに覚えるのではなく、「誰が・いつ・どこで・何をしたか」をつなげて覚えるようにしましょう。地理では地図や資料の読み取りを出題していま

す。公民では、政治分野だけでなく経済分野も学習しておきましょう。資料を読み取る力と、その背景を説明する力を重視しています。各分野とも用語の説明などを記述で求めることもあるので、的確に表現できるよう練習しておいてください。小学校で学ぶ基本的な用語は、どの分野においても漢字で書けるようにしておきましょう。

公文国際学園中等部

算数

A・B 入試ともに大問は 5 題です。計算問題、基礎事項を確認する問題、文章を読んで考える総合問題で構成されています。頻出問題についてはまんべんなく出題されており、処理能力（計算力）が必要となります。読解力、グラフや図を見る力、論理的思考力も問われます。苦手分野をつくらないように心がけ、基本的な問題はスピードを意識して解く練習をしてください。また、何に注目をして、どう考えたのか、途中でどのような計算をしたのか、ほかの人にわかるように記述する練習もしてください。

国語

A・B 入試ともに大問は 3 題です。文学的文章、説明的文章、要約問題または漢字や語句などの基本的知識事項を問う問題で構成されています。説明文の論理構成を理解できているか、小説の登場人物の状況や心理を読み取ることができているかが問われます。ふだんから社会の事象について考えを巡らしているか、それを文章で表現できるかも問われます。漢字および四字熟語・慣用句など国語的な知識を持っているかも問うので、やや難しい説明文を根気強く読む練習をしてください。また、「なぜ」をたくさん持ちながら小説を読んでみてください。本文の内容について 120 字程度にまとめる練習をしておきましょう。

理科

大問は 3 題です。理科の幅広い分野への関心が問われます。図や説明文を正しく読み取り、それを利用して問題解決する力を試します。自分の考えや解釈を正しく記述できるかも問われます。科学的なことへの幅広い関心を持つとともに、理科の基本事項も確認しておいてください。説明文や図表からどのようなことがわかるのか、説明できるように練習しましょう。

社会

大問は、地理・歴史・公民の分野別で 3 題です。社会科の基本事項や時事問題の基礎知識が問われます。地図・図表・文章などから必要な事柄やデータを読み取り、説明する力を試すので、社会科の基本事項を確認しておいてください。また、時事問題に関心を持ち、新聞記事やニュースを読む習慣もつけてください。グラフ、写真、統計、年表などの図表や、文章から読み取れることを説明する練習をしておきましょう。

数学

大問は 5 題です。数学検定 3 級相当レベルまでの内容を出題します。単に計算ができるかどうかだけではなく、理解をしているか、途中計算も書けるかどうかが問われます。答えや解き方を覚えるのではなく、なぜそういう解き方をするのかまで深く理解できるような学習をしてください。

英語

A 入試は英検®準 2 級相当、帰国生入試は英検®2 級（一部準 1 級）相当の内容となっています。空所補充・整序・長文読解で構成されており、大部分は記号選択問題（一部に記述問題もあり）となっています。単語・熟語・語法・文法の知識、文章構成力が問われます。長文読解は広範囲な題材より出題されているので、日ごろから各種の英文に触れ、読解力を高めておいてください。また、語彙を増やすように心がけ、正確な語法・文法の知識を身につけておきましょう。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

湘南学園中学校

算数

最初の計算問題と小問集合を正確に、ある程度スピーディーに解くことが大切です。平均、速さ、食塩水の濃度、角度を求める問題は必ず出題しています。その次は、面積や体積の問題ですが、そこでは円周率（3.14）に関する計算ミスをしないことが大切です。大問5・6は、総合的な文章題ですが、(1)(2)までは、グラフの読み取りができ、問題設定を理解すれば解けるようになっています。

国語

漢字の読み書きと、ことばに関する知識問題は必ず出題しています。読解問題は論説・説明文と小説・物語文の2題です。記述問題では、不適切な文末処理や誤字・脱字による減点があります。読解問題に関して、A日程の問題の難度は、2018年度まではやや難しめにしていましたが、2019年度よりB・C・D日程と同じレベルとしています。

理科

大問 5 題構成です。大問1は小問集合で、どの分野からもまんべんなく、基本問題が10問出ます。続く大問2～5は、化学・生物・物理・地学の順に、4 分野からそれぞれ 1 題ずつの出題となっています。基本的な知識を問う問題のほかに、実験や観察を題材として、実験方法や実験器具の使い方を問う問題、実験結果をもとに考えを進めていく形式の問題を出します。グラフや表のデータを読み取り、比例や濃度などの簡単な計算を行う問題も、毎年出題しています。

社会

大問は、地理・歴史・総合の3題が一般的です。地理では、いくつかの都道府県や地域の特色を問うものが多いです。歴史では、人物名などを暗記しているかどうかよりも、歴史の流れや、同じ時代の政治・経済・文化・外交の関連性をつかんでいるかを重視しています。総合では地理・歴史・公民の知識を問いますが、時事問題も含まれ、グラフや表を読み取る出題もあります。漢字指定のある設問以外は、仮名表記でも構いません。

桐光学園中学校

算数

本番に向けて、算数の過去問を毎日解きましょう。その見直しにも取り組めば、受験の当日まで学力は伸びます！ 難しそうに見えるものでも二度、三度と問題文を読んだり、図に書き込んだり、表にしたりと手を動かせば、解く糸口が見えてきます。算数は1題の配点が大きいので、問題文の読み間違いや解答欄の間違いには気をつけてください。また、解答欄にはていねいな読みやすい字で記入してください。

国語

漢字に関しては、同音異義語が複数ある語句に注意が必要です。小説に関しては、登場人物の心情把握がポイントとなります。「何となく」ではなく、本文中に根拠を見いだして解答してください。評論は、一般にいわれていることと筆者の見解との違いをつかみ、それらを踏まえて解答するよう心がけましょう。選択肢は、正解に見えても、要素不足のものや、文中に根拠が認められないものに注意してください。記述は、必要な要素を過不足なく書きましょう。

理科

教科書の内容を確認し、身の回りの現象に興味を持ち、過去問を重点的に解きましょう。特別に指示がない限り、計算問題の結果は分数ではなく、小数または整数で答えてください。教科書に漢字で書いてある用語は漢字で答えましょう。多くの場合、一見難しく見えるものも、問題文をしっかりと読んで内容を理解すれば解きやすくなります。また、前後の問題に着目すると解きやすくなることがあります。あきらめずに最後まで取り組みましょう。

社会

日々の勉強のなかで、「なぜ？」を大切にしてください。そして疑問に思ったことはすぐに先生や保護者に聞いてください。そうすると社会で学ぶさまざまなことが日々の生活に関係していることがわかるので、理解が深まって忘れなくなり、時事問題にも強くなります。また、実際の試験の時間配分に慣れるには、過去問題を何年分も解くのが一番です。できるだけたくさん解きましょう。

法政大学第二中学校

算数
試験時間は 50 分、配点は 100 点です。基本的な知識とそれに基づく応用力を問う問題を中心に、日常の学習に対する努力と継続力を見ます。計算ミスやケアレスミスなどがないように、ていねいな計算を心がけましょう。

国語
試験時間は 50 分、配点は 100 点です。例年、文章をきちんと読み取る力、表現できる力を問う問題を多く出題します。本や新聞などで、日常的にたくさんの文章に触れ、読みこなす努力をしてください。

理科
試験時間は 40 分、配点は 75 点です。基礎的な知識と考える力を問う問題を中心に、日常の学習に対する努力と継続力を見る問題が多く、幅広い分野からバランスよく出題します。そのため、苦手な分野をなくすことが大切です。時事問題を出すこともあります。

社会
試験時間は 40 分、配点は 75 点です。基礎的な知識と考える力を問う問題を中心に、日常の学習に対する努力と継続力を見る問題が多く、幅広い分野からバランスよく出題します。歴史・地理・公民のつながりを意識して学んでおきましょう。時事問題を出すこともあります。

森村学園中等部

算数

①計算問題（標準的な四則計算）、②一行問題（割合と比・速さ・場合の数など、算数で扱う基本的な数量関係を問う問題）、③～⑥図形に関する問題（線の長さ・面積・体積・角度などを問う問題）や融合問題（グラフを読み取る・数え上げる・比を用いるなど、工夫を必要とする問題）で構成されます。融合問題の場合、小問を解き進めると、解答にたどり着くこともあります。全問を通して、円周率は 3.14 として計算してください。解答欄にはすべて単位を記入済みです。また、答えるときは、約分して既約分数にしましょう。それができていない場合は減点となります。解答欄に途中式を書ける問題がいくつかあります。答えを出すまでの過程が書いてあれば、部分点をつけることがあります。

国語

問題冊子は 15～20 ページ程度です。配点 88 点の読解問題は、1 説明的文章、2 文学的文章（ともに 44 点前後）の順に配列しています。それぞれ 3000～5000 字程度の文章に、10 問前後の設問が目安ですが、どちらも文章の難度によって多少の増減があります。

3 は配点 12 点の漢字の読み書き問題で、書き取りが 8 問、読みが 4 問の計 12 問です。国語という教科の性質上、問題は「易」から「難」という配列になってはいません。難しい問題は後回しにして、まずは 3 の漢字から着手し、次に自分の得意とするジャンルの問題文に進むのが望ましいでしょう。

1・ 2 の読解問題の配点は、選択問題は 1～4 点、記述問題は 4～8 点が目安です。記述問題は、内容に応じて部分点を付けますが、指定字数を無視した解答はすべて 0 点という扱いになります。3 の漢字は各 1 点です。「とめ・はね・はらい」などについては、極端に厳格なチェックはしませんが、あいまいな字や、画数が正しい字と異なるような乱れた字は 0 点とします。

理科

大問が 4 題で、物理・化学・生物・地学分野からそれぞれ 1 題ずつ出題します。小学 3 年生の教科書にまでさかのぼって、まんべんなく学習してください。大問のなかの小問は、簡単なものから順に並べるようにしていますが、大問自体は簡単な順に並んでいるとは限らないので、得意な分野から解いていくことをお勧めします。また、教科書の内容の身近な応用や、理科的教養にかかわる問題を出題することがあります。特別な指示がない限り、漢字で書かなくても減点にはしませんが、計算問題で単位を書き忘れたり、「〇つ答えなさい」「記号で答えなさい」などの指示に従わなかったりすると減点になります。

社会

大問 1 は歴史の問題で、配点は 25%程度です。特定の時代に偏ることなく出題します。大問 2 が地理分野、大問 3 が公民分野で、配点はそれぞれ 15～20%程度になります。大問 4・5 に「時事問題」と「共通性を探す問題」を置き、合わせて 15%弱の配点になりま

す。「時事問題」は 12 月までの出来事が範囲になると考えてください。また、「仲間はずれ問題」は分野の指定はありません。そして、大問6が「総合問題」です。これは、本校の社会科問題の特徴といってもいいものなので、過去にどのような問題が出ているかを調べてみてください。配点は 25%を目安にしています。特別に難しい知識を要求することはありませんが、考える力を見たいと思っているので、記述が多くなってきます。問題に接したときは、自分で考えることをふだんから心がけ、自分の考えを文にまとめる練習をしておいてください。全体の構成・問題量とも例年と同じようなものになります。特に指示のある場合を除けば、漢字で答えなくても正解とします。なお、論述問題は国語の試験ではないので、文法などを厳格にチェックすることはしません。

山手学院中学校

算数

今年度も昨年度と同様の出題形式です。全部で 20 問、1 問 5 点で 100 点満点です。解答欄には単位がすでに記載されているので、答えのみを書けばいいようになっています。したがって、部分点はありません。また、はっきりとわかる数字を書いてください。たとえば、「0 と 6」や「4 と 9」は見間違いやすいので、ていねいに書くよう心がけてください。分数で答える場合は帯分数でも仮分数でも構いませんが、約分をきちんとしてください。円周率は 3.14 を使って計算します。

1は計算が 3 問です。多少複雑なものもありますが、ゆっくりと慌てずに解きましょう。2は空所補充の小問が 5 問で、さまざまな分野から出題されます。3～6は文章題です。文章題の配点は全体の 6 割を占めますので、きちんと準備をしておく必要があるでしょう。いずれも小問 3 問です。もし途中で詰まってしまったら次の大問に進み、後で時間が余ったら戻って解き直すのも一つの方法かもしれません。解きやすいものから難しいものへと配列していますが、自分の得意分野から挑戦するのがよいでしょう。

文章題は、小学校で学習する各単元から広く出題されるので、偏りのない学習を心がけてください。例年よく出題されている分野は、「速さ」「割合（濃度）」「場合の数」「図形」「規則性」です。傾向をつかむためにも、過去問を少なくとも 2 年分は学習するとよいでしょう。難易度は、基本・標準レベルの問題を多くする予定です。市販されている標準的な問題集に取り組むことで十分な対策となるでしょう。

特待選抜については、出題形式がほかの日程と多少異なります。大問 1 題分が記述形式で出題されます。途中経過を書くように指示された問題のみ、解答欄に途中経過を書いてください。答えが出ていなくても部分点が出ますので、考えた過程や計算式を書き残すように心がけてください。

国語

全日程において試験時間は 50 分間で、100 点満点です。全日程で平均点が 6 割程度の試験になる予定です。なお、特待選抜では、ほかの日程と比べて記述問題の割合が多いですが、基本どおり本文の内容をしっかりと押さえ、条件を満たした適切な解答ができるように準備してください。それ以外の日程では、これまでと形式の違いはありません。昨年度と同様、本文の内容を理解したうえで、さらに考えを深める問題を出題することもあります。

本校では「問いを解くことで本文の理解が深まる」ことを心がけて問題を作成しています。日ごろ皆さんが接するものより難しい文章を出題することもありますが、そのようなときはぜひ、問いそのものをヒントにして読み進めてみてください。全日程とも、大問は 3 題です。大問1は論説文、大問2は小説または随想などの文学的な文章、大問3は漢字の読み書きです。大問1と2は読解中心です。大問1の論説文では、本文中のキーワードや指示語、接続詞に注意して、文章の論理的な流れを把握することが大切です。記号を選ぶ問題のなかには選択肢が長いものもあります。その長さに惑わされないようにしましょう。

選択肢そのものを部分に分け、それぞれが本文内容と合っているか、または違っているかを明確にしながら答えていきましょう。
大問2の文学的な文章では、背景や場面を的確に判断し、登場人物の心の動きをとらえることが大切です。比喩や情景描写は、人物の心情を反映していることも多いので、それらを読み取る力も求められます。論説文と同様に、本文中に根拠を求め、客観的に正解を読み取ることが必要です。設問をよく読み、自分の主観や感想を交えないように気をつけてください。記述問題の場合は特に、「何を」「どのように」答えるべきかの判断をしてから、ていねいに答えてください。このときも、あくまで本文の内容に沿って答えましょう。作品のメッセージや表現効果を確認する問題もよく出題します。
また、大問1と2では、ことばの意味や使い方、文法問題も出題します。勉強中に知った新しいことばを確認し、熟語集・問題集などで演習しておきましょう。大問3は小学校で学習する範囲の漢字の読み書きです。しっかりとした形を心がけ、ていねいに書きましょう。人に読んでもらうのだということを考えて、採点者に伝わるように書いてください。

理科

理科の勉強において、知識や計算力はとても大切です。それらは身の回りの自然や現象、生き物などの観察から身につけることができます。自然界に目を向け、見て感じたこと、一つひとつの現象に疑問を持つようにしてください。本校の理科では、そうした点を重視しています。また、それを入試問題として出題します。身近な自然現象が、これまでの学習内容とどのように結びつくのか。そのような視点で勉強をしてください。
問題の構成は昨年度と同様です。試験時間は 40 分間で、大問は物理・化学・生物・地学の各分野から 1 題ずつの計 4 題です。各分野とも約 20 点ずつで 80 点満点となります。それぞれをバランスよく勉強しておくとよいでしょう。各大問は基本問題から始まるように作っています。知識を問う問題および計算力を問う問題では、頻出問題もあるので、確実に得点してください。
また、図や表を読み取り、考察力を問う問題も出題します。暗記だけではなく、応用力が試されます。過去問に類似した問題を出題することもあるため、解いておくことをお勧めします。考察力を問う問題では、自分が実験や観察をしているつもりになって解いてみましょう。出題者の意図を読み取り、問題のなかにあるヒントを見逃さないようにしてください。一見、初めて見るような問題でも、よく読むと教科書の基本的な内容だったりします。考察問題の出来が合否を分ける可能性もありますので、最後まであきらめずに解きましょう。

社会

例年どおり、地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。難度や形式にも大きな変更はありません。各分野ともに、苦手な単元を作らないように、基礎的な知識をしっかり定着させながら学習を進めることが大切です。地理分野では、表やグラフ、統計を使用した問題を出題しています。初めて目にするものであったとしても、慌てずに落ち着いて正確に読み取りながら問題を解いてください。歴史分野では、原因と結果、起こった出来事の前後

関係を意識して勉強するとよいでしょう。資料を使った問題はもちろん、歴史的な内容に対する正しい理解がなされているかどうかを確認するための正誤問題を出題することもあるので、本校の過去問を参考に対策を進めておいてください。公民分野では、時事問題を出題します。2026 年に起こった出来事をよく振り返り、内容を整理しておきましょう。また、漢字指定の問題がたくさんあります。どの分野においても、教科書・参考書に載っている語句、習った語句については練習して、正しい漢字で解答することが大切です。